

毎日肌にふれるから「洗淨成



「洗淨クリニック表参道」 院長

片桐 衣理 さん

美容皮膚科、内科医。長い臨床経験に積んだ安全かつ効果的な身体内外からのアプローチと、繊細で繊細のセンスで美容のプロや富貴関係者からも絶大な信頼を得ている。
<http://www.ari-clinic/>

洗淨成分を知りたことも 美肌への一歩

清潔に美しくなりたい、日々体や顔を洗うことには熱心なものの、そのための洗淨成分には無頓着という人も多いはず。『ドラッグストアなどで販売されている製品の洗淨成分は、大まかに石油系、植物油系、動物系の3つに分けられます。石油系は、石油由来の洗淨成分で、たくさんの種類がありますが、代表的なものとして、ラウリル硫酸Na、ラウリル硫酸カリウム、スルホン酸Naなどが挙げられます。洗淨力と泡立ちを高める効果があり、現在数多くの洗淨剤の成分として使われています。公的に認められていないので問題のない成分ではありますが、成分が肌に残り続けると、皮膚が弱い方は手や肌のかゆみや発疹を起こしてしまったり、髪を傷めてキューティクルをはがしてしまったりする可能性があります。洗淨力が高いので、人や使った方向によっては、皮脂や水分を取りすぎてしまうことで乾燥を引き起こし、かゆみやアゲがでたり、肌や頭皮の新陳代謝を崩してしまう可能性もあります。

動物性系は、動物性から得られる天然の油脂に、アルカリ成分を加えて作られています。これら「石けん」は、肌や頭皮に負担をかけることなく、高い洗淨効果が期待でき、洗淨成分が肌に浸透しにくいのが特長です。肌のことを考えて、「石けん」を見直すのもひとつです。洗淨成分で肌に影響を与えてしまうのは、実は洗い方の問題も大きいと片桐院長。『シャンプーなどを使う場合は予洗いして汚れを落としてから、できるだけ洗淨剤の量を少なく、時間も短くするためのです。そして体や顔を洗うときに、ボディシャンプーやヘアシャンプーを、手やタオルにのせて、そのまま洗う部分に押しつけてゴシゴシと泡立てていませんか。こうすると肌を傷つけやすく、成分が肌に入らずに流れてしまいます。洗淨剤は、必ずタオルやネットの上でしっかりと泡立てる。洗うときは絶対に「すすらず、表面の汚れをやさしく包むようにして、すすぎは念入りにしましょう」。自らも化粧品開発などで様々な成分を目の当たりにする片桐院長は、洗淨成分も時代の節目を迎えていると言います。

「泡立ちが大事、ただ汚れが落ちれば良い」という進化から、今はいかに人や地球にやさしく安全かという進化が問われています。もっと、買う人の意識が高まれば、成分の質も上がり、低価格化してきます。成分をよりよいものに進化させるのは消費者の意識が力になります。」

生活排水の分類と 1日1人当りの負荷割合

生活雑排水 約70%	台所からの排水	約40%
	風呂からの排水	約20%
	洗たくからの排水その他	約10%
し尿		約30%

生活排水とは、台所、トイレ、風呂、洗たくなどの日常生活からの排水のことです。1人が1日に使う水の量は250Lにのぼります。このうち、トイレの排水を除いたものを生活雑排水といえます。例えば、洗たく洗剤をすすぎ1回でOKの物に見直すことで負荷割合を減らせます。